



LD等発達障害児・者親の会

「けやき」機関紙

第100号

2012年10月発行

発行者・代表 三輪 覚子
けやきホームページ URL

〒198-0014 東京都青梅市大門 1-787-8
[http:// keyakitokyo.web.fc2.com/](http://keyakitokyo.web.fc2.com/)

12月2日Wing研修会案内

自主グループ「キャリア教育講座Wing」では、昨年度に引き続き「発達障害者のライフステージを考える」研修会を実施いたします。

青年期・成人期を迎えた人たちを、私たち周囲の大人はどう導けばいいのでしょうか。

今回の研修内容では、手帳の有無に関わらず利用できる支援機関の機能（役割）から利用の仕方までを、現職の担当者の方々に具体的にわかりやすく説明していただきます。将来を見据えて、在学中のお子さんの親御さんにはもちろんですが、就労されてこれから先の生活を考えている方のご家族にとっても、知っておきたい有意義な情報が満載です。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【発達障害者のライフステージ（支援）を考えるⅡ】

～お子さんのこれからのキャリア、Wingとともに考える3時間～

◆日時：平成24年12月2日（日）13：30～16：30

（受付13：00）

◆会場：明星大学 日野校舎 26号棟 103教室

（日野市程久保2-1-1）

◇多摩都市モノレール「中央大学・明星大学」下車 徒歩7分

◆対象：小中高校の保護者・教育関係者・支援関係者等

◆申込み：「けやき」Eメール又はFAXにて**11月24日（土）まで**にお申込み
ください。ご所属・お名前・連絡先を明記してください。

◆定員：先着**100名**（定員になりました場合のみ、連絡いたします）

◇Eメールアドレス：oyanokai_keyaki@yahoo.co.jp

◇FAX番号：042-637-1451

◆資料代：当日受付にて資料代**1,000円**を申し受けます。（けやき会員は無料）

◆備考：◇保育はありません。

◇会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

◇お問い合わせは、上記Eメールアドレスまでお願いします。

来る12月2日（日）に、「発達障害者のライフステージ（支援）を考えるⅡーお子さんのこれからのキャリア、Wingとともに考える3時間ー」と題して、Wing主催の研修会を明星大学日野校舎で開催します（詳細は案内をご覧ください）。

発達障害の子供たちは、その成長発達段階（ライフステージ）に応じた支援が不可欠です。特に、就労と職場定着に向けた青年期から成人期には、本人を取り巻く人的支援ネットワークを地域の社会資源の下に築いていくことが大切です。それゆえ、この研修会では、第Ⅰ部で就労支援に関わる社会資源について解説し、第Ⅱ部でそれらを活用するノウハウを深めて行きたいと考えています。

学校卒業後に確実に直面する「働くこと」への準備を、本人のみならず、保護者の方々も今から始められることを強くお勧めします。

教授 松為信雄氏（神奈川県立保健福祉大学）

自主グループ「キャリア教育講座Wing」では、昨年度に引き続き「発達障害者のライフステージを考える」研修会を実施いたします。

青年期・成人期を迎えた人たちを、私たち周囲の大人はどう導けばいいのでしょうか。子どもたちの成長に伴って、学習・集団生活・友人関係・進学など節目ごとの悩みがあります。幼少時からの取組みに始まり、普通校に通いながらの相談はできないか？ 手帳を取得の意味は？

障害雇用のメリットとは？ どんな職種に向いているのか教えてほしい！ 同じ悩みを抱えるお母さんはこんな時どうしたんだろう？等々、悩みは尽きません。今回の研修では、手帳の有無にかかわらず利用できる支援機関の機能（役割）から利用の仕方までを実際の担当者が具体的にわかりやすく説明いたします。

<内容>

1部：「在学中から就職までをサポートする支援機関が利用方法を伝授」

- ◇ 立川若者サポートステーション（就労支援課長 工藤 彰子氏）
- ◇ 東京都発達障害者支援センター（就労支援担当 神保 育子氏）
- ◇ 神奈川障害者職業センター（上席カウンセラー日高 幸徳氏）

2部：「安定就労から自立に必要な支援について」

- ◇ 指定討論者 神奈川県立保健福祉大学 教授 松為信雄氏
- ◇ 話題提供者「企業が求める人材とは～雇用事例の中から」
株式会社ベネッセビジネスメイト 山田 智子氏
「働き続けるためのコツ～支援事例からの報告」
小金井市障害者就労支援センター ボーバル 聡美氏
「子の自立を考える～親としての心構えとは」
Wing 保護者

7月講演会報告と感想

日時 2012年7月21日(土) 14:00~16:45

会場 三鷹産業プラザ7階会議室

演題 「実践!ペアレント・トレーニング ~プログラムの基礎を学ぶ~」

講師 中田洋二郎先生 立正大学心理学部教授

小学4年生から中・高生の親会員が中心の自主グループ「つくし」では、今年度、思春期に焦点をおいた子どもとの関わり方を学習するにあたり、立正大学の中田先生に『ペアレント・トレーニング』についてご講演頂きました。

講演会には会員以外の参加も募り、保護者、小学校教諭、スクールカウンセラー、福祉機関支援者、学生等幅広く、多くの皆さまに講演会に足を運んで頂きました。

最初に、子どもの好きなどころとその行動をシートに記入するワークショップがありましたが、自分の子どもの長所や好きなどころが直ぐには思い浮かばず、好きな行動もなかなか書けないありさまでした。先生から、今日一日の中で子どもの生活を思い直してみましようというヒントを頂き、漠然と子どもと接していることに改めて気づかされました。また、ペアトレの目的は、子どもの行動に注目することで、親が子どもの特徴を理解し、子どもの内面の変化に気づくことが思春期への対応に繋がるとのお話が印象にのこりました。講演の最後に、思春期の対応についての質問にお答えいただき、有意義な2時間半でした。

参加者の感想

(感想から抜粋・簡略して掲載致しました)

- ◆自閉症の3才の子には、ほめ方や接し方は実践できそうですが、むしろ、現在、言うことを聞かない、言ってもなかなかやらない姉(障害はない・6才)の接し方に活かそうだと思いました。(親 子ども6・3才)
- ◆講演内容が非常に分かりやすく、ペアトレを自分で勝手に解釈していた部分の誤解が解消されました。(親)
- ◆学校のスクールカウンセラーから「とにかくお母さんほめてあげてください」と言われていましたが、どうほめていいのか判らなかったので、今日は参考になりました。(親 子ども12才)
- ◆ほめる事の大切さを実感した次第です。この事は夫婦で共有し実践していこうと思います。(親 子ども13才)
- ◆ワークシート記入ができて良かった。子どもの心理的な面がもう少し聞けたら良かった。(親 子ども13才)
- ◆我子との関係が比較的良好な状態であることが、ワークシート『続けさせたい行動』の記述が多かったことから、改めて自覚・確認できました。(親 子ども28才)
- ◆ペアレント・トレーニングの意義ややり方を教えて頂き、とても有意義でした。本格的に行うのは難かしいですが、基本的な考え方や心構え等は活用して

いけたらと思います。(教育関係、 小学校)

◆とても丁寧な講演内容で、基本も学べ、ポイントも抑えられました。(教育関係 小・中スクールカウンセラー)

◆ペアレント・トレーニングの内容を聞く機会はなかなかなく、参加でき良かったです。対象年齢も広く対応できそうなので、学び直しをしてみたいと感じました。(就労支援関係)

◆ペアトレについては講演会等で知っていましたが、プログラムの意味や大切なポイントとなるべき考え方をうかがえる事ができ、勉強になりました。お母さんたちと一緒に子どもの行動について考えて行きたいと思います。(子ども家庭支援センター)

◆LDは自己認知のゆがみをかかえているということに、ただ苦手な分野があるだけでなくそれがその子の人間関係の築きづらさを与えていると思うと、問題の深刻さと子どもの苦しさを感じました。ただ単にほめるのではなく、その行動が身につく為に大切な事なんだろうなと思いました。(大学生)

9月会員交流会の報告

日程：9月22日(土) 14:00～16:30

場所：東京都多摩社会教育会館 202研修室

9月の例会は、会員限定の交流会という形で行われました。テーマは「自立に向けた親達の準備～親亡き後も見据えて～」というもの。言葉だけ見ると重いのですが、和やかで気持ちがほっこりする交流会でした。

12人と少人数でしたので、将来への考え方も盛り込みながらひとりひとりがじっくりと子供の近況を話すことができました。子供の年齢は、中学生から30歳台半ばと幅があり、若い方の親御さんからは、今は学校生活がうまくいって落ち着いているが、卒業後、将来はどうなるのかという漠然とした不安を抱えている。という声が聴かれました。一方、社会人となっている方の親御さんからは、自分の体力・気力の衰えが年ごとに感じられるようになり、「親亡き後・子供の自立」がだんだんと実現味を帯びてくるようになった。との発言があり、年齢高めの親御さん達が「そう、そう」と大きくなずいておられる姿が印象的でした。

話し合いの中では、年金をどうするのか(申請するタイミングや取得しない、あるはできなかった場合の生活設計)、自宅やお墓の後継者問題、様々な書類(福祉の申請、変更や税金、光熱・通信費の支払い関係など)の扱い(自分でできるかどうか)、成年後見はどうする。自宅から出て暮らす場合の進め方(ウィクリーマンションや通勤寮で練習する等)、結婚に対する考え方(人生設計)などなど、考えておかねばならない。あるいは、親達がしっかりしている間に解決しておかねばならない問題が次々に出てきました。

頭がクラクラしそうでしたが、こうやって時折集まってお互いの状況を話し合う

中に、問題解決のヒントがたくさん隠れているような気もしました。ひとりで抱え込んでいては打ちのめされそうですが、ひとりではない、少しずつ少しずつ皆と一緒に前に進んで行こうと思った交流会でした。

(Y. A)

東京LD親の会連絡会にて、東京都（都知事宛）への要望書を提出しました

10月9日に都庁を訪問し、教育庁・保健福祉局・産業労働局それぞれに要望書をお渡ししました。にんじん村とけやきの会員の皆様の意見をまとめたものです。都側の各部署からは、毎年丁寧な回答をいただいています。今年度も直接説明していただける機会を設定してくださることになりました。日時は決まり次第お知らせします。

要望内容や昨年度までの回答については、けやきホームページ内、東京LD親の会連絡会のコーナーにて資料を掲載していますので、ぜひご覧ください。

(三輪)

LD学会報告と写真

秋の仙台～LD学会に参加して

W i n g 新堀和子



東北随一の都市である仙台市内を抜けると広瀬川のせせらぎや自然がいっぱいの環境に一変し、駅からわずか10分でこのような環境になるという不思議な体験をしながら、国際センターの会場に入りました。親の会のブースに行き、気が付くとポスターが手元にありません！！受付に忘れていたのです。再び親の会のブースに行くと、親の会の方々に拍手で迎えられるという恥ずかしい思いでしたが、心配して下さった皆さんに感謝、感謝でした（笑）

「二次障害を防ぐために」

東京都発達障害者支援体制整備委員会でもお世話になった明治学院大学の緒方明子先生の司会で、二次障害の背景のメカニズム、サポステでの相談や予防するために、家族支援と話がすすめられた。二次障害の背景には思春期前後の「皆と違う自分」に気づくが、生まれ持ったの障害特性の為に特性がある事が理解できない。また、「皆と同じ」と言うことで得られる心の安定を得ることができない上に、失敗体験等で自尊心の低下を招きやすい。いくつも重なる困難による後期高等教育以降の精神障害を併発する要因が更に深く見えた気がしました。



「通常の学級における発達障害のある子どもたちの「合理的配慮」とは」

東京都教育委員会時代には「けやき」も大変お世話になった大田裕子先生のお話が印象的でした。「今後のことを話し合う時は、保護者、本人、教員で相談するが、意見が噛み合わない時は、先ず一つ決めてやってみる事が大切」と強く話されて、穏やかなお人柄の中に素晴らしい指導性を感じました。拍手！



(東京駅)

今年も沢山の参加者で会場が埋まりました。学会でも就労、ライフワーク等の声が聞かれますが、教育・就労の両方からの視点でとらえて取り組む姿勢も大切なのではないかと感じました。

ぎんなん、牛タン、さんま、お刺身、米粉そば、きのこのてんぷら、おいしいものを食べながら仲間とのおしゃべりを楽しみ、元気になって東京駅に帰ってきました。

散歩道



大東コーポレートサービス (株)
山崎 亨

★「何でもできる、だれでもできる」★

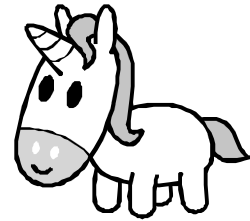
特例子会社設立後7年、我が人生最後の仕事が楽しく過ごせたことについて、心より感謝している。その経緯が会員の皆様のお役に立てれば何よりである。会社は出向社員2名、障害者5名、生活相談員1名でスタートした。今思えば、障害者以外は3名とも障害者と接点なく、障害について学んだこともない。その出向二人が社内外の支援を受け、会社をスタートさせた。当時は精一杯の連続で、今では82名内障害者55名の社員を迎え、知的17名、発達11名、精神13名、身体14名、障害についてはバラエティにとんでいる。今振り返ると多くの気づきがある。

障害を持つ社員の潜在能力は、私たちが想像したものよりも高く、僅かなサポートで適切な仕事ができる仕組みを作ることで、400種類を超える多彩な仕事に対応してきた。大きな「利益」と言う結果を出し、今では、「事務であれば何でもできる。」と断言できる。そこで教えられたことは、いかなる障害があっても、重度・軽度にも関係なく、「できない」と決めつけないことである。「できる・できない」は能力ではなく、経験によるものであることを知ることができた。ミスが出るのは「社員の責任」ではなく、「指導者・経営者の責任」との考えに立ち、「教え方が悪かった」「ミスが発見できなかった」という考えで進めた。又、「できないことはできるまで教え、できるようにする」ということを徹底した結果が現在に繋がっていると考える。決して、「できない」のではなく「今までしたことがない」ということに私たちが気づき、入社前に経験のないことは、入社後に教えることでフォローした。

又、対人場面における「コミュニケーション能力が低い」とも言われているが、これも又、経験が乏しいのであって、僅かな時間をかけて、日常的に経験を積みば問題無く過ごすことができることも知った。7年間の仕事を通し、様々なスキルをひとつひとつ獲得して、仕事にあたっている社員の表情が変わってきた。自信を持った社員の姿を、是非、見に来て戴きたい。

自主グループ活動報告

ポーレ ポーレ



ポーレポーレ活動報告

7月8日（日）

葛西臨海公園へ行きました。

マグロやペンギンの写メをたくさん撮りました。

入園するときに降っていた雨も、その後園内で食事のときには止んでおり、水族館を出たあとは少し海の周りを散歩して解散となりました。

8月12日（日）

外は暑さが厳しいので、涼しい部屋でゆっくり過ごしました。

初めに近況報告をしました。

最近、どんな風に日々過ごしているか、いろいろと話しました。オリンピックや流行なども話もありました。

後半は、カードゲームをしました。新作の「ぴっぐテン」はさくさくと進められるゲームで、勝負は決して運だけでもなく、楽しかったです。

9月9日（日）

今回も涼しい部屋でゆっくり過ごしました。

初めに近況報告をしました。車の免許を取った人、世界遺産検定に受かった人、旅行を楽しんだ人など、たくさんのお話を聞いて楽しかったです。

北海道と岐阜のお土産のクッキーもいただきました。

後半は、ゲームなどをしました。

10月14日（日）

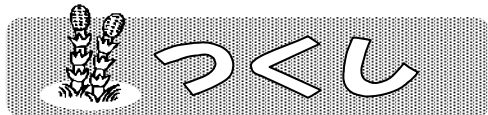
上野のツタンカーメン展に行きました。

10時40分頃に会場につきましたが、すでにいっぱい。整理券をもらい、12時に入ることができました。

貴重なツタンカーメン像、装飾品や調度品などは、非常に興味深かったです。3500年も前の物なのに、輝き続けていることに驚かされました。

ツタンカーメン展の前に、池の周りを歩き、中華料理屋さんと喫茶店の2つに分かれ、少し早めの昼食をとりました。楽しい時間となりました。

(H・O)



8月から毎月1回「ペアレント・トレーニングプログラム」について、7月の中田先生の講演会で頂いたテキストを使用して学習会を実施しています。

* 初回は、これから進めるペアトレ学習会を通して、自分の子どもの具体的な行動について学習することで、これまで、我子をどのように見ていたのかに気づき、子どもの特徴にも気付けるようプログラムを通して考えていくことを話し合いました。

* 第2回 ペアレント・トレーニング学習会

内容：「こどもの行動を3つに分ける」

～ 増やしたい行動・減らしたい行動・辞めさせたい行動 ～

プログラムの基である「行動」と「注目」について話し合い、それを基に、改めて、各参加者から出された「3つに分けた行動」について話し合いました。話し合う中で、3つに分けた行動の見方は、親の意識（価値観）が反映することを共有しました。

* 第3回 ペアレント・トレーニング学習会

内容「ABC行動」について

『子育てに活かすABCハンドブック』（三田地真美・岡村章司著：日本文化科学社）

〔第1部 1ミニレクチャー ABCの基礎の基礎〕を読み、それぞれが、我子の行動をABCフレームに当てはめて考えて見る事を宿題としていました。

検討してきた其々の事例を話し合う中から、幼児の場合と異なり、自立の過程で判断力が身につき始めた学齢期後期の子どもたちには、「A」の先行事象の部分について、子どもに問いかける事や、一緒に考える事が大事なのではないかと話し合いました。

次回は、11/10(土) 10:00～12:00 国分寺労政会館 第2会議室

(T・T)

今年度のWingは「親子で企業の実習体験 ！！」

2008年からの講座は、幅広いプログラム内容に取り組んできました。

今年度はその中でも企業見学・体験に絞り、8月の見学実習を中心に活動をしてきました。また、事前学習、事後学習のあり方等保護者も一緒に取り組んでいます。

24年度 キャリア教育講座

回	日程	内 容	
1	7/8 (日)	挨拶、自己紹介など ①オリエンテーション ②講座ルール・予定 ③1日会社見学・実習先の説明 🌟宿題：見学希望を親子で考える	
2	8/5 (日)	〇1日会社見学・実習事前指導 ①全体 目的・日程確認、マナーや注意事項 ②見学先別 時間や仕事の内容、持ち物・服装 🌟宿題：自宅から会社までの通勤練習	保護者 ◇希望した企業に お願いをする ◇企業との連絡
3	8/20 (月)	★1日会社見学・実習 希望した会社を見学、働く体験	◇希望した会社に 直接行く
目的：①会社（仕事）や働くために必要なこと（力）を知り、これから取り組むことを考える。②働く生活をイメージし、親子で今後の進路を一緒に考える。			
4	9/9 (日)	〇1日会社見学・実習事後指導 ①目的の確認 ②振り返り・まとめ③成果を発表する	
5	10/21 (日)	①講座のまとめ 1年間を振り返り、作文にまとめる ②修了式 修了書をもらう 作文を発表する	講評

協力企業

(株) KDDI チャレンジド (株) いなげや ウィング (株) キューピーあい

講師

神奈川県立保健福祉大学 松為信雄氏 小金井市就労支援センター ポーバル聡美氏
株式会社いなげやウィング 石川 誠氏 株式会社キューピーあい 藤岡美和子氏
あきりの市障がい者就労・生活支援センター 市村たづ子氏

10月の講座後は、研修会の準備に入ります。

(代表 新堀)

おやじの会



12月15日（土）に忘年会を計画中です。
時間・場所・参加費など決まり次第お知らせしますので、会員の皆様もぜひ参加ください。

（藤本）

今後の全体活動の予定

12月 2日（日）	研修会（Wing 研修会とけやき会員研修を兼ねています）
12月15日（土）	役員会と忘年会
1月28日（土）	入会のための説明会と相談会
2月23日（土）	研修会（親が主催するキャリア教育の実践報告を予定）
3月23日（土）	役員会（年間のまとめと次年度計画について）

編集後記

子供は身長も低く体力も弱いのですが運動がとても大好きで、体育祭（10/8）では一生懸命頑張っている姿を見せてくれました。不器用なのですが目を輝かせて色々な競技に参加していました。今回は応援団に入り大声を出して応援している姿を見ていましたら遅しくも見えてきました。子供の成長ぶりに何故か目頭が熱くなる思いをした一日でした。

（T・M）

